

平成26年度 第4回熊本市立図書館協議会

－ 議事録 －

日時 平成26年10月29日（水）

午後3時30分～

会場 マスマチュアル生命ビル 2階 会議室

《出席者》

■熊本市立図書館協議会委員

山中 守 委員 (会長)

加藤 貴司 委員

吉永 千草 委員

下城 明美 委員

山野 佳子 委員

以上 5 人

《欠席者》

田中 誠也 委員

吉村 純一 委員

以上 2 人

傍聴者 1 名

《出席者》

■熊本市側

緒方 熊本市立図書館長

牛山 植木図書館長

河津 生涯学習推進課長補佐

(事務局)

・中島館長補佐 (熊本市立図書館)

・井手主幹兼主査 (")

・坂本主幹兼主査 (")

・清田主幹兼主査 (")

・神鷹参事 (")

以上 8 人

平成 26 年度 第 4 回熊本市立図書館協議会 議事録

1 開会

2 図書館長挨拶

3 議事

議題

- ・ 図書サービスのあり方について
- ・ 第三次熊本市子ども読書活動推進計画について

【質疑】

(事務局より説明)

委員 12 ページ「改善の方向性」の「②利用者の多様な利用目的に対応し、個人での学習、親子で本に親しむ体験、高齢者の有意義な時間活用、利用者相互の交流などに対応できる環境整備に努めます。」とあるが、本来図書館の学習スペースは、図書館の資料を使って学習を行うためのスペースだが、最近は学校の宿題等を学習スペースでしている光景を見受ける。そのようなことから、本来の目的で使用したいと思っても、使用できない場合があるため、公民館等に学習スペースを設けることはできないか。それができれば、公民館に来ている人達が、子ども達の宿題を教えたりすることにより幅広い年齢層での交流が生まれてくると思う。

事務局 植木図書館や公民館図書室は公民館と一体となっているため、夏休み期間中は公民館と連携を図り学習スペースの開放を行っている状況がある。しかし専用の学習スペースを作るとなると各施設の都合もあり常設はなかなか難しい状況にある。

しかし、他施設との連携については、改善の方向性の中で社会教育施設との連携という項目を挙げているため、そのような施設に対してこれからも図書館から協力要請を行っていく。

また、熊本市立図書館、くまもと森都心プラザ図書館、熊本市立城南図書館については、学習スペースを備えていかなければならない。特に最近は利用者からの学習スペースへのニーズが高まっている。確かに、図書館の学習スペースにおいては、図書館の資料を使って学習するということが大前提だが、社会

情勢の変化等により利用者の学習スペースへのニーズについて、応えていかなければならないと思っている。

委員　　私が、龍田公民館に勤めていた当時も夏休みに学習スペースを設けていた。現在公立の公民館が16館あるが、現状ではなかなか部屋が空いていない。例えばA会議室を夏休み期間中を通して学習スペースに充てるということがかなり難しい。また、各館で利用状況も異なる。特に東部公民館は部屋が空いていない。言われる通り、公立公民館に学習スペースを確保できればいいが、現状ではなかなか出来ないと思う。可能であればとてもいいことだと思う。

委員　　時代の変化や施設のスペースの問題もあるため、一律に行うのではなく施設毎に基準を作って柔軟に対応できるといいと思う。

事務局　　植木図書館は、公民館施設も充実しているため、学習スペースを固定するのではなく、臨機応変にその日空いている部屋を学習スペースに充てている。学習室の利用は年々増えてきている。

委員　　その日に空いている部屋を学習スペースに充てるということであれば、利用者は、実際公民館まで来ないと利用できるかどうか分からないため、不安定なのでは。

事務局　　それは、使用料を支払っている利用者優先になるため止むを得ないところがある。

委員　　結論が出るようでない。しかし、基本的には、施設毎で基準を作って対応するということがいいと思う。

事務局　　この図書サービスのあり方についての中に取り組みの方向性を出している中で、個別の取り組みを具体化していく方向である。

委員　　ちなみに、環境整備の中には、学習スペース等を広げることも含まれているのか。

事務局　　それは、このあとの財源の中で検討していくことになる。出来る限り予算の獲得にも努めるが、与えられた条件の中で利用者のニーズに応えていくために知恵を出していくことが必要だと考えている。

委員 19ページの人材育成では、取り組みの方向性の中で大学等との連携に触れているが、同じように17ページのボランティアとの協働についての取り組みの方向性の中に大学との連携を入れたほうが良いと思う。図書館の仕事に興味を持っている学生は大勢いると思う。

委員 ボランティアと人材育成を兼ねるということになる。

事務局 委員の意見は、できる限り取り込んでいきたいと思う。学生のボランティアについて、各学校と連携を図るという方向で検討していく。

委員 そのような視点があれば、民間では出来ない公立図書館の役割がクローズアップされると思う。

事務局 今の意見については、「13 人材育成について」のところに組み込みこんでいく。ボランティアの活用の中に人材育成を組み込むと分かりづらくなる。

委員 教育委員会の事業の中で教育学部の学生と協働しているユアフレンド事業というのがあり、その事業はボランティアと人材育成を兼ねている。そのようなことが、図書館でもできれば良いと思う。

委員 ボランティアを行いながら人材育成を兼ねるような制度は、大事な制度だと思う。

事務局 「13 人材育成について」の取り組みの中の手段に今の意見を取り込んでいく。

委員 ボランティアと人材育成と比較した場合、ボランティアに柱があるよりも人材育成に柱があったほうが良いと思う。

事務局 今の意見については、ボランティア活動を通じた人材育成といった理念の部分をこの中に盛り込むといった形で整理する。

委員 13ページのポータルサイトの注釈を入れて欲しい。

事務局 ポータルサイトにも注釈を入れる。

委員 他に質問や意見がなければ、「図書サービスのあり方について」は了承されたということで、次の「第三次熊本市子ども読書活動推進計画について」に移る、事務局から説明をお願いします。

(事務局より説明)

委員 学校段階が進むにつれて、読書する割合が減少するという説明があったが、中学校になると部活動等で時間を取られて、高校になると大学受験の準備等で時間を取られてしまうので、この割合を増加させることは大変だと思う。

しかし、この計画に示されている取り組み等の効果により植木町が熊本市と合併して学校図書館がとても充実してきたことは感じる。いつも、新しい本や新しい児童書が学校図書館にある。小学校へ読み聞かせへ行った際には、子ども達の学校図書館の利用がとても増えてきていることを感じる。

委員 17ページの概要②で「学校職員のみならず、PTAと連携したり…」とあるが、家庭での環境がとても大事と思う。24ページの「(1) 広報・啓発活動の推進」の中でも「家庭・地域・学校等における子どもの読書活動を推進するためには…」とあり、家庭に対して保護者にどのように啓発していくのかということが、「ア 各種関連情報の収集・提供」の概要①や②にもっと見えてくるといいのかなということを感じた。

委員 家庭での読書活動はとても大事だと思う。子どもの読書活動に興味がある保護者は、自ら積極的に読み聞かせ等のイベントに参加しているためよいが、図書館等に興味がない保護者にたいしての広報啓発が重要である。興味がある保護者の子どもは図書館で本を沢山借りている。

委員 小中学生の保護者は、地域というと校区を中心としたものと考えてるためそこでの読書環境の充実を考えるが、幼児の保護者は、子育てサークル等の公民館活動等を中心としたものを地域と考えると思う。地域の捉え方が、校区を中心としたものと公民館等を中心としたものと混在しているため、地域も分けて考える必要があると思う。

委員 幼児の保護者でも昼間時間がある保護者は読み聞かせ等のイベントに参加できるが、共働き・一人親家庭の保護者のように昼間時間がない保護者は読み聞かせ等のイベントに参加できないなど、家庭環境が多様化してきている状況で

子どもの読書習慣について影響があると思う。

委員 私も幼児の保護者なので、読み聞かせ等のイベントによく参加するが、参加している保護者はいつも同じである。参加しない保護者に話を聞くと、どうせ子どもは本を読まないなど、保護者が最初からシャットアウトしている場合がある。子どもを読書好きにするのは親の家庭教育が重要だと思うので、取り組みの中に組み込むことは大事だと思う。

委員 小さなときに読書に関わる機会が多かった子どもとそうでない子どもとは、根本的に何が違ってくるのか。子どもが成長していく過程で教育効果等の違いがはっきり出てきているのか。

委員 漠然と感性の違いや想像力の違いが出てくるのではないかと考えているが、それがデータで証明されているかは分からない。

事務局 以前、新聞等で学力テストの結果から読書をする子どもの方が、学力が高いという傾向があるという報道があった。

委員 ほかに、沢山読書をする子どものほうが、感性や想像力が豊かになりひとの気持ちがよく分かると思う。

委員 これからの世の中においては、社会環境や家庭環境がますます多様化していくと思われるため、地域等についても対象をある程度はつきりさせておかなければ動けないかもしれない。

事務局 私論ではあるが、この計画の中でも関係課の取り組むエリアが分かれているが、これからはその取り組むエリアが重複していかなければならないのではないかと思う。また、地域の重複については全然構わないと思う。実際この計画を進めていくうえでは、総てが重なり合っていくことで効果が出てくることを期待したい。

もう一点は、14ページの「イ 家族での読書活動の推進」も家庭での読書活動の推進に関わる項目で、これから具体的にどのような取り組みを行うか各担当部署で知恵を出し合いながら進めていきたいと思っている。家庭での取り組みについては、非常に大きな影響がある部分と感じているため、今回は力を入れていかなければならないと思っている。

委員 25ページの「イ 広報、啓発活動の推進」の中で「生涯学習関係機関連絡会議等を活用して、…」とあるが、これは協働して何か事業を進めていくのか、それとも広報に力をいれるのか、教えてほしい。

関係課 生涯学習関係機関連絡会議は、外部の組織の方を入れて行う会議で、子どもの読書活動の推進ということが議題になりにくい会議なので、そのような機会を捉えて広報啓発を行っていくということである。

会議というと生涯学習の社会教育委員や教育委員会関係者ばかりが集まる会議が主になるが、生涯学習関係機関連絡会議になると幅広い範囲の関係者が出席する会議になるため、その場を広報啓発に活用していくということである。しかし、実際どのように活用できるかは未定である。

委員 実際取り組むとなるとやりにくいことが出てくると思う。

事務局 計画については、年度ごとに取り組状況を検証しながら進めていく。

委員 最近変わってきたのは、以前から指摘があるように、地域のことを念頭に事業を実施していくということを考えていかないといけなくなってきた。これからは、地域をどう支えるかという発想に転換していかないと効果が出てこないと思う。

委員 今からは、お金を掛けないで地域を支えていくことが大事だと思う。

委員 他に質問等がなければ、議事の進行を事務局へ返す。

4 その他

5 閉会